

東京都立五日市高等学校定時制課程 令和5年度学校経営報告

【今年度の取組と自己評価、達成度、課題と対策】

校長 松崎 真理子

(1) 教育活動の目標と方策

項目	目 標	取組と自己評価	達成度	課題と対策	
学習指導	ア	地域と連携した活動を取り入れるなど、総合的な探究の時間の4年間の全体計画を立て、探究力や社会力を身に付けられる取組を推進する。	各学年ごとに授業の中で地域と連携した探究を行い、地域理解、障害者理解、地域産業理解を学んだ。	A	1年次から4年次までの「総合的な探究の時間」の内容について、更にブラッシュアップしていくための検討を行う。
	イ	生徒の実態を踏まえ、分かる授業を展開して基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高める。	学校全体で生徒の学力に応じた授業内容の精選と授業方法の改善を進めていく必要がある。	A	一人一台端末の活用について検討し、学習意欲を喚起できるように、授業力の向上を図る。
	ウ	令和4年度から導入する観点別学習状況の評価の趣旨を踏まえ、授業のねらいを明確にし、振り返る場面を設定して評価を行うなど、観点別学習状況の評価を確実に実施し、授業力の向上を図る。	新教育課程の実施に伴い教育課程、グランドデザイン、ルーブリックの確認、観点別評価について検証している。(来年度に向けて検討中)	A	学習意欲を高めることが出来るよう、各教科全体で授業の工夫を行う。また、授業力向上のための研修を行い、観点別評価について検証を行う。
	エ	全教員がチャームで授業を開始するなど授業規律を確立し、生徒が集中して学びに向かう環境を整える。	全教員がオンタイムで授業を開始する意識は醸成できている。	B	全ての授業において規律を確立し集中して学べる環境を整えるよう指導を進める。
	オ	生徒による授業評価を活用した情報共有と教科主任会主体の相互授業参観により、授業力の向上を図る。	教員の授業相互参観を行うとともに、授業評価に見られる傾向を分析し、多くの授業で改善傾向が見られた。	A	教科主任会を活性化し授業評価を確実にフィードバックできる仕組みを構築する。
	カ	実験・実習の実施など生徒の興味・関心を高める体験的学習の実践により生徒の主体的な学習活動の充実を図る。	理科、「総合的な探究の時間」、英語等において積極的に体験的な授業を行った。	B	教科横断的な授業となるよう、多くの教科で体験的な学習を取り入れていく。
	キ	アクティブラーニングを取り入れた授業実践により、生徒の学びに向かう力、コミュニケーション力や表現力の向上を図る。	グループでの協働学習や意見交換をする場面を積極的に設定し取り組むことができた。	A	引き続き主体的にかつ積極的に意見を表明し、考える場面を設定することで、生徒の力を培う。
生活指導	ア	毎日の昇降口における挨拶指導を通じて、生徒の心身の健康を向上させるとともに、学習をはじめ学校の教育活動全体に	生徒が自ら挨拶し、主体的に行動する力を身につけられるようになった。	B	引き続き、生徒が意欲的な学校生活を送ることが出来るように挨拶指導を継続する。

		対する意欲の向上も推進し、生徒が安心して学校生活を送れる環境を作る。			
	イ	日常的な身だしなみ指導、遅刻指導、挨拶指導等を全教職員により取り組むことで、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	全教員で毎朝登校時に挨拶、身だしなみの指導を行い、生活習慣の定着が進んでいる。	C	引き続き日常的に教員全員体制で取り組む。遅刻する生徒数の減少を目指す。
	ウ	避難訓練をはじめとした防災教育やセーフティ教室等の安全教育を充実させ、安全・安心な学校づくりを引き続き行う。	危機管理計画の更新及び外部機関と連携した防災教育等を実施。生徒の防災意識 100%	A	引き続き外部と連携し防災教育を進めるとともに、生徒防災委員会の活動場面を増やす。
	エ	教職員の共通理解を図った上で、保護者との連携による欠席・遅刻・早退等の指導などきめ細かな指導を進め安定した学校を維持する。	担任団と連携した段階的な遅刻指導・面談等を実施し、細やかな指導を実施	A	教員により温度差が出ないように全教員が同じ意識で保護者や関係機関との連絡を取り、情報共有できるようにする。
	オ	自殺防止に向けてSCやYSWと情報共有を行うとともに、SOSの出し方に関する指導を実践する。	生徒相談委員会等によりSCやYSWとの情報共有ができた。支援体制への理解度は、生徒80%、保護者100%、教員100%。	A	生徒相談委員会等、学校全体で取り組み、具体的な対応・支援方法の情報共有し実践する。
進路指導	ア	進路希望に応じたキャリア教育の推進と、地域との連携等により、生徒の進路への意識を高める。	校内外でのさまざまな体験活動を通して、自分の存在が社会の一員として認められているという自覚を持たせ、自尊感情や自己有用感を育むことができた。	A	引き続き外部機関を積極的に活用するとともに、目標を明確に持ち希望する進路の実現に向けて支援していく。
	イ	進路希望に応じた進路ガイダンスの実施やインターンシップによる進路指導の充実を図る。	アルバイトやインターンシップなどの実社会での就労体験を奨励して早期職業意識の形成を図った。	A	生徒の進路意識を高め、10年後を意識した進路選択ができるような仕組みを構築する。
	ウ	グループエンカウンターの実施によりソーシャルスキルの向上を図り、社会人となる意識を向上させる。	1、2年生を対象にグループエンカウンターを実施し、ソーシャルスキルの向上を図った。	B	今後は、グループエンカウターの時間以外にも、力を付けられる機会を模索する。

	エ	自立支援チームを中心に高校生 の社会的自立を目指す進路 支援事業を活用し、進路意識の 向上を図る。	生徒との面談を繰り返 し行う中で、必要なこ とを伝えるなど、きめ 細かく対応している。	A	希望する進路を目指せる よう、自立に向けた支援を 効果的に行う。
特別活動	ア	地域に開かれた学校づくりと して、「ヨルイチ」などの地域行 事や地域清掃活動への参加、和 太鼓での交流及び天文台を活 用した観望会など、自治体、小・ 中学校、関係機関等と協働した 取組を行う。	地域行事の「ヨルイチ」 への参画や小・中学校、 関係機関等と連携した 研修会や天体観望会を 実施した。	A	地域と連携した行事への 参画を通じた地域貢献に ついて、更に様々な教育活 動を展開していく。
	イ	文化祭等の学校行事や委員会 活動において、生徒の自主的、 主体的な活動の充実を図る。	担当する分掌はじめ多 くの働きかけにより生 徒主体の活動ができつ つある。	A	引き続き、学校行事に積極 的に取り組めるように指 導・支援するとともに、委 員会等の活動にも生徒が 主体として取り組めるよ う支援する。
	ウ	学校行事や地域と協働した取 組等により、生徒の達成感や自 己有用感を醸成する。	ヨルイチや夏・体験ボ ランティアへの参加に より職業や社会の現実 に対する理解を深める ことができた。特に、1 年生の和太鼓演奏の成 功体験は、自尊感情や 自己有用感を大きく育 むことになった。	A	来年度も引き続き、地域と 連携した行事や教育活動 に参画し、地域貢献を図 る。
	エ	地域と協働した取組により、地 域の方に本校の活動を知って もらえる機会を増やす。	地域清掃や防災訓練等 地域と協働した取り組 みを行った。	C	地域との連携した教育活 動を新たに模索していく。
	オ	外部専門機関と連携して、社会 人として必要な意識の向上を 図るなど主権者教育を推進す る。	選挙や年金等、様々 な生徒を対象に主権者 教育を実践することが できた。	B	社会に出た際に必要とな る知識等を専門的な視 点から継続的に取り組む。
	カ	総合的な探究の時間、教科指 導、行事等における図書館の活 用と読書習慣の確立を推進す る。	授業等での利用に加 え、図書委員会による 読書行事を推進した。	A	授業内外で生徒の主体 的な図書室利用を引き 続き進める。
健康作り	ア	部活動への積極的な参加を促 進し、自主的、自発的な活動 を通して、豊かな人間性や協調 性、リーダーシップなどを醸成 する。	各顧問の創意・工夫 ある指導のもとで、 生徒の自主・自発的な 参加による部活動や 学校行事の活性化を 図った。	A	部活動の加入率を上げ るとともに、活動を 活発にすることが 大きな課題である。

	イ	「アクティブプラン to 2020」に基づく体力テストの活用をはじめ保健体育の授業による体力向上を図る。	体力テストの結果を活用し、体育の授業で毎時間トレーニング強化を行い基礎体力の向上に取り組んだ。	B	保健体育の授業時や部活動において、体力向上や運動への意欲を更に高めるための取組に力を入れる。
	ウ	自校調理の給食の喫食率の向上を目指すとともに、食育の実施による健康作りを推進する。	コロナの2類から5類への移行に伴い、喫食が通常通り実施できるようになった。	B	食育の実施による健康づくりを推進していく。
	エ	SCやYSWを活用、特別支援委員会を中心とした個別指導の充実により、生徒の心身の健康を増進する。	定期的に情報共有の場を設け、生徒・保護者がスクールカウンセラーやYSWを活用しやすい環境を構築し、安定した学校生活を実現することができた。	A	生徒一人一人の状況にあった対応および校種別研修会を実施。今後も引き続き悩みや迷いに対して早めにアプローチできる環境を維持する。
	オ	発達障害に関する知識を全教員で共有し、個別の案件に対して適切かつ丁寧に対応する。	特別支援コーディネーターによる、特別支援教育委員会の開催により、課題を抱えた生徒の情報共有を行った。	A	引き続き、生徒相談の情報共有会を実施し、特別支援コーディネーターの後任の育成を行う。
学校運営	ア	民間事業者を活用した学校説明会等のPR動画を作成し、特色ある教育課程を踏まえた学校案内及び学校紹介動画、見やすいホームページの作成と定期的な更新等、PR方法を工夫することにより広報活動を充実させる。	学校案内やHPの整備と適切な管理等を行い、学校情報を効果的に発信した。	B	学校説明会等で活用する資料をホームページにより更新し、本校の取組や特徴などがより理解しやすい資料を作成し、効果的な入試相談を実施する。
	イ	学校の特色等を資料としてまとめ、全員体制による中学校訪問を行い、中学校の理解を深める。	教員全員で分担して近隣中学へ訪問を行った。定時制の教育活動等に関する問い合わせが増えた。	B	引き続き、教員の全身体制による中学校訪問と生徒の母校訪問について検討していく。
	ウ	生徒の活動が見える、学校見学会や学校説明会など、積極的な広報活動を確実に進める。	学校を紹介する機会を増やし積極的な広報活動を行った。ホームページの更新を積極的に行うことができた。	A	ホームページの更新を引き続き行うとともに、ホームページを見てもらえるように工夫を検討する。
	エ	授業力の向上、探究活動の指導や観点別学習状況の評価などの理解を深め、実践を通じて指導方法などが定着するよう、OJTや校内研修の充実を図る。	授業参観や研究授業を相互に行い、各教科担当の指導法や授業実践について学んだ。	B	OJTや校内研修について、組織的に計画を策定し、研究協議を行う。

オ	ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科で校内業務の整理と効率化を図る。	業務の効率化と精選、ならびに休憩時間の積極的な取得を推奨した。	C	働き方改革の一環として、オンとオフの切り替えが出来るような校務運営を行う。
カ	全教職員が学校改革への意識を高め共有することで、改革を推進する。	教員の学校経営参画意識は高くなった。	B	変化の中で機敏に対応できる校内体制を探っていく。
キ	きめ細かい指導、生徒の主体的な活動を推進し、生徒及び保護者等の満足度の高い学校づくりに取り組む。	定期的に情報共有の場を設け、生徒・保護者がSCやYSWを活用しやすい環境を構築し、安定した学校生活を実現することができた。	A	生徒一人一人に丁寧に声を掛け、変化を見逃さない指導を継続的に行う。些細な情報も共有し、全教員で取り組むことで生徒及び保護者の満足度を高める
ク	管理運営規程に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的な学校経営を推進し、校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。	週1回程度の企画・職員会議で組織的な学校運営はかなり円滑に進んでいる。	B	各分掌や学年の現状と課題を共有し、一つ一つ着実に解決できるよう引き続き取り組む。
ケ	学校いじめ防止基本方針に基づき、年3回の調査を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。全員体制による定期的な校内外の巡回により、いじめなどの問題行動の未然防止を推進する。	定期的な巡回指導に取り組むとともに、精神的なサポートを行い、問題行動を未然に防止した。いじめアンケート調査を年3回行い、調査結果に基づいていじめ対策委員会を行うことでいじめの未然防止につなげた。	B	規範意識等の意識を身に付けさせ、問題行動の未然防止に向けた環境を全教職員で整備をする。
コ	体罰防止に関する生徒理解を推進するとともに、計画的な教員研修により体罰根絶に向けて全校的に取り組む。	体罰防止研修を年3回実施し、体罰防止について教職員の意識を高めた。	A	体罰防止研修の内容を工夫し、引き続き体罰根絶に向けて意識を更に高める。
サ	サービス事故未然防止について、クリーンデスクや個人情報の管理、体罰や生徒への性的暴力等についてコンプライアンス研修等を実施し、更なる徹底を図る。	年3回のサービス事故防止研修と日頃の声掛けにより個人情報の管理への意識が高まった。	B	クリーンデスクはかなり進展したが、引き続き繰り返し声を掛ける必要がある。
シ	経営企画室の学校運営への積極的な参加を推進するとともに、学校経営計画及び予算編成指針に基づき、計画的な予算執	予算執行率94%、一般需用費のセンター執行割合56.8%など、効果的・効率的な予算執行	B	企画室職員との日常的なコミュニケーションの場を意識して設け、風通しの良い職場を目指す。

	行、施設・備品管理、学事、環境整備などについて、円滑かつ適切な進行管理を図る。	を行えた。		
ス	全日制課程と定時制課程の連携を深め、双方の教育活動一層理解することで、学校の安定化及び活性化を推進する。	ヨルイチでは全定連携した取組ができた。全定各分掌が連携を密にし、双方の教育活動についての理解を深め互いに尊重し安定して取り組めた。	B	今後も、教員間はもとより、生徒間でも互いを尊重する精神を培い、互いに高め合えるような取組を行う。

(2) 重点目標と方策

	目 標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
①	教育課程、三修制、入選業務などの、適正な運用・改善・効率化を図る。	昨年度の新学習指導要領の開始に伴い、評価方法などを評価・検討した。入学選抜の要領などを確認し、間違いのない採点ができるよう点検した。新学習指導要領に準じた三修制に関する規定の見直しを行った。	A	次年度に向けて引き続き検討を行う。
②	担任・保護者との連携による欠席・遅刻・早退等の指導等、きめ細かい指導を実施する。	担任団と連携した段階的な遅刻指導・面談等を実施し、細やかな指導を実施した。	A	引き続き、学校全体で保護者や地域と連携した生活指導を徹底していく。
③	自己分析を目的としたキャリア教育や進路適性検査を通して自己の能力や適性に対する理解を深め、社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を自覚させ、その獲得に向けた努力を促す。	実社会での就労経験に乏しく職業意識の低い生徒が、自己の能力や適性についての理解も不十分なまま就職活動を始め、最後まで苦勞した。職業意識の形成と自己理解の促進は、今後も大きな課題になる。	A	外部人材や地域の教育力を活用し、キャリア教育を推進していく。
④	ライフ・ワーク・バランスの推進に向けて、各分掌、各学年及び各教科で校内業務の整理と効率化を図る。	業務効率化に向けて様々な計画、業務の整理を行った。教員の意識 64.7%となった。	B	特定の教員に負担が偏らないように、学校全体で組織的な業務運営を行う。

【達成度】 A：達成できた。今後も継続する。達成率 80%以上

B：おおむね達成できた。より良くなるよう改善を図る。達成率 50%以上

C：達成できていない。改善が必要である。達成率 50%未満

(3) 数値目標

	目 標	令和3年度	令和4年度	令和5年度	課題と対策
①	生徒の授業満足度 80%以上	97.6%	94.3%	96.6%	各授業の評価に大きな開きがある。組織的な授業改善を引き続き図る。
②	進路決定率 70%以上	70.0%	100%	100%	就職希望内定率 100%を次年度も目標として継続するとともに、キャリア教育を更に充実させる。
③	遅刻回数 1人月平均5回以下	2.39回	2.18回		遅刻の常習化を断つ粘り強い指導等を行い基本的な生活習慣の定着や規範意識の醸成を全教職員で引き続き取り組む。
④	中途退学者 10名以内	5名	2名	1名	引き続き個に応じた丁寧な指導を展開し自校に対する強い帰属意識を醸成する。
⑤	生徒の地域行事等への参加に対する地域の理解 65%			45.9%	
⑥	本校地域活動に対する地域の認識 50%			37.5%	
⑦	地域の本校生活指導への理解 70%			57.8%	
⑧	自立支援チーム派遣事業への理解 100%			100%	